令和８年度 第２回 池田支援学校 学校運営協議会 議事録 要約

１ 日 時

令和８年 10 月 29 日（木） 9:35～11:50

２ 場 所

池田支援学校美馬分校 ２階ビルメンテナンス室

３ 日程及び会次第

9:15 ～ 9:35 受付
9:35 ～ 10:10 学校見学
10:20 ～ 11:50 学校運営協議会
（1） 開会
（2） 学校長挨拶
（3） 会長挨拶
（4） 協議
① 令和８年度における学校での取組について
② 各部会での協議
（本校）地域連携活動部会
（分校）支援学校「みまカフェ」部会
（5） 諸連絡
・第３回学校運営協議会について
（6） 閉会

４ 議事録(要約)

（1）開会

事務局 ： 資料に沿って進行する旨を案内し、新委員の紹介と挨拶をお願いする。

H 委員： 前任者より施設長を引き継いだが、約３年前にも本校の運営委員を務めていた。引き続きお願いしたい。

（2）学校長挨拶

学校長 ： （出席への謝意と本校・分校の近況を報告した。）
本校は小・中学部の学習発表会準備、高等部のオープンキャンパスや北九州・福岡・別府方面への修学旅行（10 月７日～9 日）の実施、明日の「とくしま教育の日」の公開について報告した。分校は後期就業体験（11 月９日～）

の準備や 10 月 10 日の学習発表会、ケアプラザ美馬での地域交流の実践について触れ、本日の報告への意見・感想を求めた。

（3）会長挨拶

会長： 授業見学の感想として、性教育や人との付き合い方など新しい課題に対しての先生方の意欲を感じた。特に、児童生徒が今後社会へ出て就業体験や就職を行うにあたって、一番難しいのが人間関係やコミュニケーションである。トラブルを未然に防ぐための指導が学校や家庭、さらには地域の人たちの協力が重要であり、本会での意見を求めた。

（4）協議

①令和 8 年度における学校での取組について

※本校、分校毎にこれまでの取組について報告する。

②各部会での協議

（本校）地域連携活動部会

・事務局　：これまでの地域連携・地域貢献・地域啓発活動の成果と課題について別紙資料（地域連携・貢献・啓発 活動一覧表）を参考にし、率直な意見やアイデアをお願いしたい。

・D 委員　：学校周辺の地域とは深い交流が続いているが、東みよし町など少し離れた地域では支援学校の存在や行事（オープンスクール等）があまり知られていないのではないか。一般の地域住民への情報の届きにくさについて、認知度を高めるためにはどうしたらよいか。

・F 委員　：現在は、東みよし町との直接的な連携は実施していない。以前は「素人会（NPO 法人三好素人農事研究會）」とのそば打ち交流などもあったが、内容やタイミングが合わず現在は休止している。

・C 委員　：（連携の実施において）移動手段や交通インフラの少なさが交流の大きな障壁になっている。特に障がいのある子どもたちや高齢者にとって、公共交通機関の利用困難は地域全体の共通課題である。学生のうちにバスや JR、飛行機などの公共交通機関を実際に利用する経験を積むことが、将来の就労や自立生活、行動範囲の広がりにおいて非常に大きな恩恵をもたらす。日常的な乗降体験や移動支援の機会を増やすことが重要である。「本人会」において、市町単位でできることはないか検討している。

・B 委員　：学園でも夏休みや冬休みに箸蔵から池田まで路線バスに乗って移動する活動を実施している。

・D 委員　：過去は書道交流を実施したことがある。スタジオファンによるフラダンスなどの事例を挙げ、 外部人材の持つ技能を活用した交流の可能性を提

案した。学校へ来てもらう形での交流提案として、自身が通うフラダンス教室や地域のクラブ(山城 AKB 等)の話題を挙げた。

・事務局　：教員側が一から企画や準備を立ち上げるのは余裕がない現状がある。地域の方や外部団体から『こういった体験を提供できます』というパッケージ形式で持ち込んでもらえると、学校側も取り入れやすく大変ありがたい。

・D 委員　：そば打ち体験の例をあげ、地域側の「やってあげたいこと」と学校側の「してほしいこと」のマッチングが難しい。教員の負担を増やさないよう、地域からパッケージとして提案する形式はお互いにやりやすい。
※各委員から、フラダンスや生け花、茶道、竹細工等、具体的な案を提供していただく。

・A 委員　：今の学校は仕事も多く、生徒の対応や教員不足で大変な中、先生方の頑張りにはいつも感心している。地域側からパッケージ形式で持ち込むのはよい。 日赤（日本赤十字社）が資機材を持ち込んで実施した防災学習に参加した。専門機関の力を借りた体験学習が教員・児童生徒双方にとって非常によかった。

・C 委員　：「初」の取組がたくさんあるが、これを継続維持することも大変なのでは。

・事務局　：防災や不審者対応については、安全教育課主導のもと、学校の中だけで解決しようとするのではなく、せっかく近くに頼れる機関があるのだから、広く連携を図る視点が大切だと学んだ。「初」の取組については、できるだけコストがかからない、今実施していることに少しプラスしてできそうなことを実施している。

・F 委員　：新しい要素が加わると時間や手間を捻出するのがしんどい面もあるが、そうした体験を通してこそ、子どもたちや先生同士、地域の方々との新しいコミュニケーションの場がうまれる。

・C 委員　：体験の重要性について、高等部生徒のグループホーム見学や施設見学の実施は、保護者にとっても将来の自立生活をイメージし安心できる場になっている。

・E 委員　：施設見学に行き、一人一人に合わせてくれている様子を見ると、こちらも安心できる。（施設が）閉鎖的ではなく、見学会などで中の様子や地域との関わりを見せてもらえると安心感がある。

・F 委員　：中学部が魚取りに行き、色々な体験をした。昨年度の焼き芋も同様、色々な経験をさせてやることが大事である。各種体験など「五感で体験すること」が社会での生きる力につながる。教員も子どもの実体験の機会を設けることが大切である。

（分校）支援学校「みまカフェ」部会

・事務局　：美馬分校部会では、校外から見ていただいての感想や今後の課題、ご意見などをお話しいただきたい。外から見て気づかれた点について教えてもらいたい。

・J 委員　：私は美馬分校が大好きでほぼ毎週のように美馬カフェを利用している。今日の授業見学時も生徒が挨拶してくれたり、笑顔を見せてくれたりして嬉しかった。生徒がデザインしたバッジなども素晴らしいので、つるぎ町や美馬市など地元の身近な町村を題材にしたデザインも作ってもらえたら楽しいと思う。また、先日生徒が下校時に整然と一列で歩いて交通安全に気をつけている姿を見かけ、先生方の指導が行き届いているなと非常に感心した。

・H 委員　：高齢者施設にいるが、高齢者の方にとって子どもたちとの交流は存在自体がとても喜ばれる。学校の活動や生徒の取り組み、素晴らしい作品やグッズ制作の様子を見て、（自分にとって）知る機会が増えることで相互理解が深まると実感した。先生方の多大なご苦労と取り組みには敬服しており、地域貢献活動を通して生徒が大人や地域社会とどう向き合うかを学ぶ貴重な機会になっていると感じる。

・K 委員　：親目線からも、スライドを見て子どもが本当に様々な方と交流させていただいているのだなと感謝している。普段の生活では行けない場所や公共施設へ学校を通じて行かせてもらい、社会性を学んでいる。文化祭や交流会での体験は子どもにとって達成感があり、大きな成長につながっていると感じる。

・G 委員　：一つ学校に伺いたい。それぞれの地域連携活動における『目的』は何で生徒たちに『どのような力』がついたのかという点を整理することが大切だと考えている。単なる『交流』で終わらせず、生徒たちが『地域を元気にする力』を養うためにどういう工夫ができるか、教師側も目的意識を持って企画・振り返りをすることが、生徒の将来にとってもより価値のある学びになるのではないか。

・事務局　：委員のおっしゃる通りで、生徒たちは元々経験が少ないため、まずは体験させて知識や経験の幅を広げることが先決な部分もある。活動後に『何が楽しかったか』『相手はどう感じたか』といった振り返りを行い、自分たちで考えて行動する力を育てるフィードバックを重ねている。段階を踏みながら指導を行っている。

・G 委員　：段階というより、地域貢献活動のそれぞれにある目的を達成する過程で、身についた力は『地域を元気にする力』となっているのか。地域を元気にする力とはどのような力なのかを教師が考えていく必要がある。

・H 委員　：外部から見ていると、その目的設定や振り返りのプロセスはしっかり伝わってくる。イベントに向けた準備やコミュニケーションを通じた学びは

非常に大きく、体験してみないと分からない貴重な教育機会になっていると感じている。

・K 委員　：授業参観などでも、発表に向けて段階を踏んで子どもたちが真剣に取り組んでいる姿が見られ、目標達成に向けた指導をしていただいていると実感している。

(事務局)地域連携活動部会　報告

体験を通じた学びの重要性を再確認した旨を報告。防災学習や各種交流において、子どもや若い教員が実体験を重ねることが不可欠である。また、東みよし町など広域への啓発、地域人材による「パッケージ型」プログラムの活用による教員負担軽減とワクワク感の創出、移動手段としての公共交通機関の利活用と地域課題へのアプローチについて共有した。

（事務局）支援学校「みまカフェ」部会　報告

校外での交流やガチャガチャ制作、高齢者施設との関わりなど、相互理解を深める機会の重要性が示されたと報告。一方で、「地域を元気にする」という目標を抽象論に終わらせず、具体的にどのような力が子どもたちに身についたのかを教員側が検証・評価していく必要があるという指摘を受けた旨を報告した。

（5）諸連絡

次回（第 3 回）学校運営協議会の日程について確認。2 月中旬に本校での開催を予定し、協議の結果、2 月 16 日（火）の午後に決定。

続いて、県のネットワーク環境変更に伴う「学校代表メールアドレスの変更（2 月末変更）」および「事務連絡のメール化・アドレス登録（フォーム/QR コード）」への協力を依頼。また、本校の学習発表会への案内を行った。

（6）閉会

全日程の終了を宣言し、閉会。閉会後に「みまカフェ」への立ち寄りを案内して散会した。